

GS (ガンスタツ) 緊急課題 契約社員交流会を開催 7月5日・6日

「雇い止め」を許さず、要求を対置して取り組む事を意思統一!

国労は7月28～29日に第80回定期全国大会を開催し、私たち国労の最重要課題であったJR不採用問題について、苦渋の決断の末に、当事者の意見決定を踏まえ終結を確認しました。

こうした中で迎える、9月6～7日の東日本本部第25回定期大会は、四半世紀にも及んだ闘いの成果をバネに、次の闘いに向けた意思統一を勝ち取らなければなりません。

とりわけ、運動の大きな柱は組織拡大であり、この間、各級機関の奮闘により、一括和解以降92名、昨年の大会からでも20代から30代の青年を始め、「最後は国労で」というシニア世代までの幅広い年齢層の仲間9名が国労に加入しました。5年連続となる新規採用者の国労加入など、運動としての広がりには着実なものになっています。

今号は①契約社員配属職場交流会 ②新規採用者への取材 ③青年・婦人部委員会報告としました。



国労東日本本部は7月5・6日の2日間、緊急の「契約社員の組織拡大に向けた配属職場交流会」を東京・港区で開催した。交流会に先立ち松井書記長は、「①JR不採用問題について ②新たな人事・賃金制度について」を報告。引き続き、契約社員問題について提起し、「07



(組合員の購読料は) (組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 高野苗実
編集責任者 伊藤隆夫

No. 716 定価 20円

2011年

9月 6日

国労加入で変えよう 職場と労働条件

<http://www.e-nru.com>



国労東日本 第16回マラソン大会



とき：2011年11月26日(土)
ところ：皇居外周マラソン
申込は各地方本部へ

年の『駅あり』での大きな柱の一つとしてGSの皆さんが配属された。そもそも鉄道事業への契約社員配属には問題があり、この間、国労東日本本部として契約社員の正社員化や『雇い止め』問題では署名や制度要求で取り組みを進めると共に、経協などで会社とも議論をしてきた。しかしながら、来年、導入から5年目を迎えるにあたって緊急性を考える中で今回の要求となった。引き続き、希望者全員の社会人採用に向け、取り組む。同時に試験制度であるがゆえに結果として、『不合格者を労働組合としてどうするか』ここに絞った要求

とした。この4年間の人材やノウハウを生かさない事は会社にもマイナスである。他労組は現在、国に對しての法整備を求め署名を取り組んでいるらしいが、国労はJR東日本の社会的責任を求めていきたい。」と、要求の趣旨を含めて提起し交流に入った。

配属職場からは、「職場では正社員同様、契約社員が月報や社員教育もしている。」「正社員になりたいために上司に言われなくとも自主的に仕事を探したり色んな事をしている。早く正社員に!」「契約更新されない理由が不明」「精神的な問題を抱えている人も多く組合としてフォロワーが必要!」などの実態報告がされた。一方、今回の要求については、「要求だけが一人歩きすると戸惑うので、丁寧な説明などフォロワーが必要。」「時期とタイミングを考えた交渉が必要。」など、率直な意見交換となった。

最後にまとめた松井書記長は、「雇い止めに直面している皆さんの声を取り上げ、引き続き考え合いたい。今後、交渉に入るが、一つの区切りで再度意見交換したい。今後、様々な形で動きがあると思うが、ぜひとも組織拡大につなげたい。」と、交流会を締めくくった。

組織拡大の教訓を活かし、更に拡大を

現在、一括和解以降92名の組織拡大が達成されています。

東日本本部は、点から線へと広がったこの流れを面へとしていくために、拡大を実現した分会・加入者の取り組みや声をつかむべく分会取材を行いました。

拡大地方、分会の取り組みに学び、国労運動を前進させるために奮闘しましょう。

高崎地本 次の仲間をつくる責任 気持ちを新たに組織拡大

(開催日時場所)

高崎地本取材

8月22日高崎地本にて

(参加)

高崎地本・南部地域分会

昨年JR高崎支社に入社

し、国労加入した大和田

さんと当該分会の皆さん

にお集まりいただき、大

和田さんの加入当時のお

話から今後の組織拡大に

向けて意見を頂いた。

①これまでの取り組み

▽若い人との付き合いは

水面下ではしていた。た

だ、国労と付き合ってい

ることがあればと若い人



が締め付けられる。

②拡大に向けた意識は

▽大和田君が国労加入

後、執行委員会の中では

議論している。具体的に

は各班で取り組んでい

る。

③加入するときの分会の

状況は

▽当初、分会・班として

も大和田君を守れるの

か？または、他労組から

何かされるのではない

かと心配した。

▽正直、組織戦も考えた。

④心配したことは

▽差別や不利益を心配

し、本人がかわいそうと

いう意見もあった。

⑤他労組・会社の変化は

▽国労加入に関しては、

東労組は心配するほど何

もしてこなかった(幹

線)。

▽少しずつではあるが、

仕事をするうえで組合

所属は関係なくなってい

る。

⑥それらの状況を解消す



大和田さん

るための取り組みは

▽東労組は「大和田をと

られた」と言っていた。

もし、本人に手を出した

ら全面戦争になると、釘

はさしておいた。

⑦いま考えていること、

広めたいこと

▽国労でも不利益はない

となれば状況は違う。

▽試験を見ても東労組に

いるメリットはない。状

況は少しずつ変わってい

る。

▽個人的には趣味などで

付き合っているが、そこ

から先をどうするかが問

題。

▽そろそろ水面下ではな

く堂々とやっていくこと

が求められている。

⑧東日本本部に対して

▽こういう話し合いは

もつと時間をかけてやっ

てほしい。

▽試験制度が変わるらし

いが日常業務の評価が反

映されるようにしてほしい

長野地本

車掌合格を契機に激励と交流

S 三分会交流会から

8月5日、長野地本に
おいて、松本運輸区、長
野運輸区、長野運輸三分

交流会が開催されまし
た。この交流会は、国労
加入新規採用者の新津さ

松本運輸区の

1年を振り返って

〈新津さん〉

あつという間の一年だっ
た。先輩方が良い人ばか
りで今は仕事が楽しい。
乗務中、腹が痛くなつて
床にしゃがみこんだこと
もあり、体調管理も大事
な仕事であることを実感
しました。異常時の案内
では、指令無線を聞きな
がら専門用語をお客様
に正確に伝える事が難し
い。車掌試験に合格した
ときは、ものすごくうれ
しかったです。

い。
▽東労組に一回入ってし
まうと国労に入れるのは
大変。

てきた。気持ちを新たに
組織拡大に取り組もう！

若い人たちは東労組の
動員とか不満は言ってい
る。

大和田君から

☆国労の印象は？

仕事はできるし、その
面では主導権を握ってい
る。

☆試験については？
組合選びをしていると
きにいろいろ言われ、試
験については自分も心配
していた。先輩からは勉
強しろと言われ、合格し
た。

☆困ったことは？

仕事の面は、何かあれ
ばバックアップしてくれ
る。

☆次の目標は？
仕事を覚える事です。



松本運輸区・長野運輸区・長野運輸三分会交流会

車掌試験に合格して

〈坪井さん〉

車掌になると仕事も分からないし毎日一人勤務になり不安です。でも新津さんを見ると車掌はカッコいいと思います。試験は多分大丈夫とは思っていましたが、合格できて良かったです。松本になるか長野になるか分かりませんが、きちんと仕事を覚えたいと思います。

先輩から 1年を振り返って

〈松本運輸区Aさん〉

新津君が昨年来てくれて、平成採用者を初めて分会の一員に迎えた。車掌は時間管理が大変な職場。新津君のときは国労と分かっていたからか、指導した他労組の方は良い指導をしてくれた。労組を意識しないで仕事を覚えてほしい。回りの東



新津さん

労組の青年は、新津は良かったなーと言っていた。運転士も希望している。また、二人の加入で復帰者もその時に出入りして拡大したい。張ってもらいたい。

新津君が来て運転士の渡辺さんが加入してくれた。分会が活性化したためだと思う。

〈松本運輸区Bさん〉

年令が離れているので新津君も本音を言えない部分もあると思う。分会として何でも言える環境を作りたいたので遠慮なく言ってほしい。国労の主任が去年は3人だったが、今年は7人いる。21人の新たな車掌が配属になるが、指導車掌になる可能性が高いので、しっかりと指導し、かわりを持っていきたい。

東日本本部から

Qこれまで拡大にむけて取り組んできたことはありますか？

〈長野運輸分会〉

毎年、新採への労組説明会を合同でやろうと呼びかけているが、東労組だけ拒否している。チラシも配れない状況もあるので、やり方含め考えなければならぬと感じて

いる。また、二人の加入で復帰者もその時に出入りして拡大したい。張ってもらいたい。

〈長野運輸区分会〉

国労は少数だが、年配だから声を出せるという部分がある。若い人に見せる必要があると思ってる。また交流会などを取り組んでいて、今は他労組の青年から飲み会などの交流する場を求められて開催することもあ



坪井さん

る。駅との交流を継続し拡大に結び付けたい。

〈松本運輸区分会〉

新採が来る職場ではないので、個人レベルの趣味とかが主体になっていく。超勤が月50時間。国労も休日出勤をやる状況で、そういうことで悩みや不満を国労に言ってくる。それが取り組みの中心になっていて、運動になっている。

Q車掌になりたいと言われたときの状況は

〈長野運輸分会〉

国労では合格しないのではないかと不安だった。合格させるために分会で何が必要か考えあった。提案では、二人の名前で出したほうが良いのではないかななどの話も出され、色んな話になった。

新津君が合格したときはほっとした。坪井君の時は二回目なので大丈夫だろうと特に気にしなかった。

Q今心配なことや要望はありますか

〈共通〉

今の東労組はやむなく国労を脱退した人と平成採用者が多いので、嫌がらせなどはない。JR労組は組合説明会などを国労と一緒にやろうというところなので労組的な心配はない。今年の新採対策で、新採が東労組の加入オルグに行きやすいロッカー室の隣の部屋が東労組に取られていて先に加入オルグをされた。まだ不公平感はある。



水戸地本

何でも相談できるのが 国労の良さ!!

1 組合加入は本人の選択!

水戸地本・土浦地区分会 (今年度新規採用者加入分会)

8月19日 東京地方本部会議室にて開催

① 組織拡大に向けた分会での取り組み

○ 2〜3年各駅に新採が配属されてきている。国労組合員も少なくなっている。勤務終了後、新採者に土浦駅と牛久駅を中心に4〜5名で拡大に向けた取組みの説明をしてきた。

② 中村さんが国労加入したときの分会状況

○ 社会人採用1名、プロフェシヨナル採用4名が牛久駅に配属になった。現場長含めて10名位で新採者の歓迎会をやった。同じ土浦の社宅にいた中村さんと食事をしながら話をした。



中村さん

○ 牛久駅の社員数 駅長1名・助役4名・新規採用5名・採用2年目5名・3年目3名 ※国労組合員は2名
○ 4月11日の水戸支社の入社式で「JRには6つの組合があつて、加入・未加入は本人の選択の自由である」と会社から挨拶があつた。

③ 国労加入を決めたきっかけは「新規加入・中村さん(36歳)」

○ 前職場はユニオンショップで組合に加入していて、労働組合の必要性は認識していた。

○ 自分自身がどの組合に入って成長するのかわからず、国労加入を決めた。

④ 国労に入った感想
○ 周りは心配しているが、自分自身に迷いはなかった。

⑤ 国労に対する要望
○ 水戸は若い人が少ないが、全国交流に参加して若い人がいて勇気付けられた。

○ 困ったことがあつたら、相談できる人間関係が必要だと思う。また、横の繋がりも大切である。

⑥ 今後の目標

○ 新採加入により元気がなつたし、学ばされる。

○ 組織拡大は4〜5年が勝負である。レクリエーションに若い他労組の仲間も誘って一緒に取り組んでいきたい。

○ 何でも相談できるのが国労の良さである。弱者の悩みを聞いて解決して行きたい。

青年部・婦人部が委員会・交流会を開催

婦人部

は

第21回明るく元気に学習交流会

■ ストレスを吐き出し、元気にすすむ

青年部

第24回青年部定期委員会

■ 若い世代が引き継ぐ

7月9日から10日、奥入瀬渓流ホテルにおいて第21回明るく元気に学習交流会を開催しました。学習は、講師に菅原芳子さんを迎えました。婦人部としての闘いの他、闘争団の夫を支え続けてきた話をしていたいただきました。採用された自分に精一杯で夫の事まで考える余裕が無かった、夫は遅くまで一人で飲んで帰ってきた。「不採用だったごめん」といった。請願行動、座り込み、集会なんでもやった。大変だったけどつらいことばっかりでもなかった、子供が上京行動のご褒美にディズニールランドに行つて、ホテルの窓からシンデレラ城が見えて、興奮して眠れなかった、一生忘れられないと言っていた。と当時の苦労や状況を振り返りながら話しました。



交流では、震災当時の話を中心になりました。家が被災した真砂さんからその時の様子が語られ、すぐに北海道、九州はじめ各地方から支援物資やカンパが届いた、家の片づけも仲間が来て手伝ってくれた、もうありがたうの言葉しかでてこないと話されました。それぞれの職場実態を話し合い、又、OBの方からも現在の生活、原発問題についてなどの話ができました。

交流では、震災当時の話を中心になりました。家が被災した真砂さんからその時の様子が語られ、すぐに北海道、九州はじめ各地方から支援物資やカンパが届いた、家の片づけも仲間が来て手伝ってくれた、もうありがたうの言葉しかでてこないと話されました。それぞれの職場実態を話し合い、又、OBの方からも現在の生活、原発問題についてなどの話ができました。



最後に全員で国鉄労働組合歌を合唱しました。奥入瀬渓流を散策し、日頃たまつたストレスを吐き出し、リフレッシュしました。とても有意義な2日間でした。

国労東日本青年部は7月10、11日福島県西郷村のペンション西の郷において第24回青年部定期委員会を開催しました。前日の夕方からはバーベキュー交流会を開催しました。久しぶりにあった仲間や、激励に駆け付けてくれたOBの先輩方なども加わり、食事やビールなどを楽しみながら和気藹々と進みました。笑顔と歓声に包まれながら職場交流や、若い青年部

第24回青年部定期委員会報告

彦田青年部長を選出 組織拡大に全力で

の話題で盛り上がり、時間を忘れて夜遅くまで、交流を深めました。当日は、午前の部として、エリア本部より矢部法対部長を招き、東日本会社において提案された人事賃金制度問題からみ、理解を深めるため、学習交流会を開催しました。学習会では、そもそも人事賃金制度とはどういうものか、成果主義とは、会社が導入しようとするのなら、JR各社の賃金制度の状況などが説明されました。

田組織部長より、エリア本部内の組織拡大の状況や、会社や他労組の動向、GS社員の今後の採用問題と組織化に向けた課題、原発事故を受け、放射能汚染や、労働者を取りまく環境問題など大震災後の社会問題も含めた報告をされました。

青年部へのバックアップ体制の構築など、多様な意見が出されました。東日本青年部では、こうした意見を参考に、青年部組合員の連絡体制の強化、学習会、交流会の積極的な開催、上部機関や、青年対策部との連携の強化を確認しました。

青年部の仲間には熱心に耳を傾けながら、今後私たちにどのような、不利益が想定されるのかなど、質問もとびだし、興味深く聞き入っていました。その後、武

最新のがん治療に合わせて進化したアフラックの新しい「がん保険」です。

生きるためのがん保険 Days

「生きる」を創る。Afac

アフラック (アフラックファミリー生命保険会社) 東京第三法人営業部

〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

TEL 03-3437-6810
FAX 03-3437-6822

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。©詳しくは、「パンフレット(契約概要)」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。 AF007-2011-0293 6月22日